

庵我福祉だより

しあわせ庵我

第40号

平成30年1月

発行

庵我地区  
福祉推進協議会

公民館活動

庵我地区公民館長

濱



本年庵我地区公民館長を拝命しました、城山自治会の濱でございます。

館長として、はや十ヶ月が過ぎようとしています。館長としての重責を思う今日この頃です。

庵我地区の皆様には、公民館活動にご理解とご協力を賜っております。本年最初の行事の庵我歴史探訪を安井地区の皆様を協力を頂いて実施しました所、大変多くの(六十名)皆様に参加いただきました。

歴史探訪を実施するにあたり、新しい人材育成を目的にしております。また庵我地区の皆様にご協力を頂いていただき、より深くふるさとに思いを寄せたいと思っております。

そして、七月下旬から八月上旬には巡回人権講座を実施いたしました。

各地区を訪問させていただきましたところ、大変暑い日が続いていたにも関わらず参加していただいた皆様には、厚くお礼申し上げます。子ども達も参加したの行事でしたが参加者が少なかったので今後参加したいと思えるような企画並びに計画を考える必要があるのではないかと思っております。

そして、区民大運動会におきましては天候不順(警報が出ていた)で区民の運動会を中止しましたが校長先生をはじめ、各先生方の熱い思いでグラウンドを一回またもう一回と整備して本当に運動会が出来るグラウンドにして頂き、警報も解除となり子ども達には、思い出に残る運動会に成ったと公民館としても感謝いたしております。

また公民館主催の「敬老会」におきましても天候が悪く諸先輩の皆様にお申し訳なく思っておりますが一三五名の出席を頂き、節目の年をお迎えに成られた皆様をはじめ、多くの皆様のお元気なお姿を拝見し大変心強く思わせていただきました。また「敬老会」が何事もなく無事終了できましたのは多くの皆様に前日より諸先輩に楽しい会をとの思いで準備して頂きました事、大変有り難く感謝いたしております。今後共宜しくお願いたします。

そして、今年度は桃映地域公民館が七月一日(土)、福知山市長はじめ教育長等の出席のもとに設立式典が開催され庵我地区・大正地区が共に絆を深めお互いに協力して桃映地域を活性化していくことに成りました。目的は「地域公民館の諸活動を通じて、住民の新しい地域連帯感に基づく自主的なコミュニティ活動の円滑化を図り、これに関する施策の推進とその向上発展を図ること」を目的に設立されました。

庵我地区の皆様には昨年度より多くの方々のご理解とご協力を賜りましたこと厚くお礼申し上げます。今後地域公民館の行事は、「子ども達のキンボール教室」

「特大習字」「音楽鑑賞会」等実施いたします。今後共庵我地区公民館および桃映地域公民館を宜しくお願いいたします。

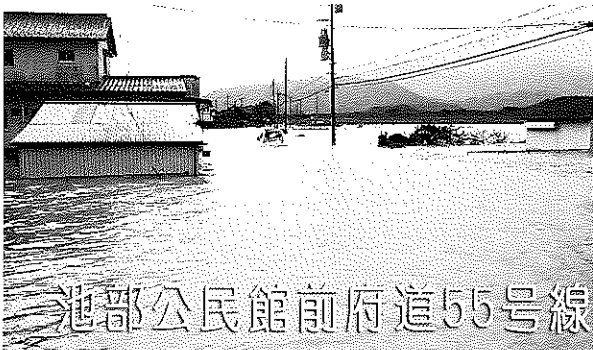
あいさつで心をむすぶ  
明るい庵我

地域ぐるみであいさつの輪を広げましょう

水害に思う

池部自治会長 植村

時の経つのは早いもので、自治会長の任期もあと数か月となりました。最終の総会の挨拶で、みなさん冒頭に「災害がなかったことが一番の朗報です」とおっしゃいます。今年もそういう挨拶ができるものと信じておりました矢先の今回の災害です。平成十六年に何十年ぶりの大きな災害が、そして忘れかけたころに二十五年、



線55号府道前館公民部池

H29. 10. 23

二十六年連続で、環境変化の影響でしょるか災害に見舞われるサイクルが短くなつてきています。当地区は低地の為、堤防がない時代はもとより堤防完成後も内水により何度も水害に悩まされ続けてきました。それでも負けずに前向きに結集して、頑張つて行こう、そんな区民の思いのもとに、昭和六十二年に多くの方のご尽力に



H29. 10. 23



H29. 10. 23

より池部グラウンドが完成しました。総面積四千四百平方メートルという広大なグラウンドを所有する自治会は近隣では類を見ないのではないでしょうが。

完成を記念して第一回池部区民運動会が盛大に開催されました。当初は世帯数も子供の数も多く組対抗で行われ大変盛り上がり、時には激しいバトルもあったりして、秋の収穫の後の憩いの行事として続いています。今でこそ子供の数も少なく隔年の開催となりましたが昨年は第十九回をむかえ楽しいひと時を過ごしました。そんなグラウンドも水害の時には真っ先に浸水してしまいます。それでも伝統行事を守り、このグラウンドに区民が集い、災害、水害を乗り越えて行ければと思います。

### 猪崎俳句会

余命ある母に雪見す障子あけ 邦子

平穩に過ぎゆく我が家三ヶ日 とし江

縫初めの針一発で糸通る 芙美子

帝陵の箒目正し年迎ふ たか

ぼかぼかと予報のままに冬日和 ゆき江

葉の落ちし木蓮花芽数多吹く 待枝

石段を空に向かって初詣 美代子

老なりの計も確かに新暦 弘子

雪原を渡る御寺の夕の鐘 八重子

雪吊の縄投ぐる声受くる声 瑞代

### 地域と共に

### 四十年の年月に思いをはせて

庵我少年野球クラブ代表

森下



そして今後に向かってかと思えます。

庵我少年野球クラブは発足以来今年で四十年目を

この度、「しあわせ庵我」に寄稿させていただきます。何をおいても二十二年間に亘って携わってきた庵我少年野球クラブの歴史、

迎えております。昭和五十二年に庵我小学校の子供達の強い願望を受けて、当時赴任しておられた中島淑厚先生、保護者の中川和様が発起人となられ、「野球を通じて地域の交流を深め、団体生活の中で規律を守り、協調性を養うことにより、健全な心身の育成を図ることを目的とします」というスローガンのもとに結成をされ、毎年毎年の活動を積み重ねてまいりました。

この長い歴史を刻み続けたのも、その年々の子供達の頑張り、野球と子供を愛してやまない熱き思いで指導をして頂いた指導者の方々、そしてそれを支える保護者の皆様のご協力。また庵我地域の方々、関係各位の皆様方ご支援・ご指導の賜と深く感謝を致しております。

特に私が代表をしてきましたこの二十二年間は、お世話になつて居る地域の皆様や福知山市に野球以外で何か恩返しではありませんが、出来ることはないかと思いをはせ、毎年十一月の最終日曜日に行われます庵我児童館の文化祭において、庵我少年野球一座と称し寸劇を行ってきました。昨年で十七回目の公演を行いました。又、十一月二十三日の福知山マラソンにおきましては、ゴール手前一キロメートルからのキッズ伴走を十年近くに亘って実施しており、参加ランナーの方々から「力をもらった！」等の感謝の手紙を頂くことも度々あります。

このような活動をしていく中で、子供達が少しでも地域の皆様との繋がりが、お世話になつて居る方々への感謝の気持ちを持って、大好きな野球に携わって行つてくれればとの思いで続けてきております。

一方本来の少年野球チームとしての活動の方とはと言いますと、創生記から円熟期でもありました初めの二十五年間には、府内三百余チームの京都府代表としてちびっこ甲子園大会に出場させて頂いたり、卒団生の中の三人が高校野球の甲子園大会に出場したり、社会人の軟式野球においては全国制覇を成し遂げた卒団生も排出しており、数々の素晴らしい歴史を築いてきております。

そしてこの後の十五年・・・団を存続していくのに一

番のエネルギーを費やしてきたように感じます。チームを登録するのに十人の選手を必要としますが九人しか子供がおらず登録が出来ない状態になりかけた年もありました。毎年、数回の体験入部等を行い可愛い一・二年生が入部してきますと、何とかこの子供達が六年生になつても各大会に出場ができるように存続して行こうと決意を新たにしてみました。

そんな中二十七期生であります植村美奈子さんが女子プロ野球選手へとなり今も活躍してくれております。彼女の好意で女子プロ野球での野球教室をお世話になっていたり、単独での指導もして頂いたり大変感謝をしております。その他にも、社会人全国制覇の選手達も指導に来てくれる事も有り、そんな彼らにも感謝の気持ちでいっぱいでもあります。

又、四十年の歴史の中には悲しいこともありました。夏の全福知山大会で四連覇という偉業を達成された当時の監督でありました田中澄夫様が平成二十八年に逝去されました。その当時は、福知山市内の少年野球チームが四十余り程あり、その偉業を凌駕するチームは今を以て現れておりません。ちなみに、今年度の登録チームは十四チームでありました。

「ワシは少年野球に命を懸けてやつとる！」田中さんの口癖でありました。そんな言葉を思い出す度にその情熱のすさまじさを感じざるを得ませんし、私達もその情熱と意思をしつかり受け継いでいかなければならないと思つているところであります。

たくさんの方々を支えられて今があります。今後五十年の半世紀をとりあえずの目標として、子供達と一緒に庵我少年野球



クラブの隆盛を願ひ頑張つて行きたいと思ひます。

私自身この二十年間を思い返すに「子供達が世界を広げてくれたな」と思うことが多々あります。人と人の繋がりと言うのは、ボランティア活動につけ、日頃の生業につけ、一番大切なものであると実感しています。その繋がりや庵我少年野球クラブの子供達や保護者の方々と一緒に活動する中で見出して行けたのだと思つています。今後、私個人が何時まで携われるかは、色々な情勢の中で考慮しているところではあります。

今後ともどうか皆様方より一層のご指導・御鞭撻を賜りますよう、宜しくお願ひ申し上げます、私からの庵我の方々へのメッセージとさせていただきます。

### 「介護保険次期改定の動向について」

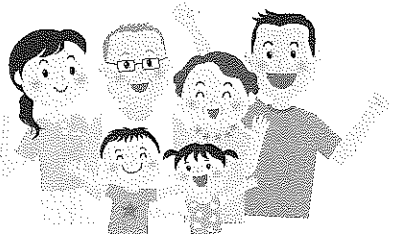
特別養護老人ホーム三愛荘

松井

庵我地区の皆様におかれましては、平素より三愛荘の運営に際し、格別のご高配を賜わり厚くお礼申し上げます。また、平成二十九年十月二十三日の台風二十一号の災害において被災された多くの皆様に心よりお見舞い申し上げます。

私が三愛荘に勤務するようになり五年以上が経過し、介護支援専門員として勤務する間にも二回の介護保険の改定があり、平成三十年医療・介護同時改定で三回目になります。

改定に向け社会保障審議会介護給付費分科会において、人生百年時代を見据えた社会の実現に関する議論も行われており、二〇二五年以降の人口構造の変化も見据えつつ、活力ある



社会を実現し、国民一人一人が状態に応じた安全・安心で効率的・効果的な質の高い介護を受けられるよう、二〇二五年に向けて地域包括ケアシステムの構築を図ることが必要とされています。

今回の介護報酬改定に向けた基本的な視点は、次のように整理できます。

#### ○ 改定に当たつての基本認識

(1) 二〇二五年に向けて地域包括ケアシステムの推進が求められる中での改定

地域包括ケアシステムを深化・推進していく観点の見直しが行われ、「医療・介護の連携」、「地域共生社会の実現に向けた取組み」などが推進される。

(2) 自立支援・重度化防止の取組が求められる中での改定

有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう、必要なサービスを提供することを目的とするものであり、提供されるサービスは、要介護状態等の軽減又は悪化の防止に資するものである。

(3) 一億総活躍社会の実現、介護離職ゼロに向けた取組が進められる中での改定

少子高齢化の進展により、介護を必要とする者が増大する一方で、その支え手が減少することが見込まれている。現在、政府においては、誰もが活躍できる「一億総活躍社会」を実現するため、「介護離職ゼロ」などの目標を掲げ、様々な取組を推進している。

(4) 制度の安定性・持続可能性が求められる中での改定

利用者負担の見直しを行うなど、制度の安定性・持続可能性を高めるための取り組みが進められている。今回の介護報酬改定においても、必要なサービスはしっかりと確保しつつ、サービスの適正化・重点化を図り、制度の安定性・持続可能性を高めていくことが必要である。

このような点からも、一人一人が、住み慣れた地域で、安心して暮らし続けられるよう、医療、介護、介

護予防、住まい及び生活支援が包括的に確保されるべく、今後も地域の連携が大切になってきます。今後ともご理解・ご協力をお願い申し上げます。

参考文献

社保審一介護給付費分科会  
第一四八回 (H29・10・27) 資料5

庵我児童館文化祭

庵我児童館長 内田

昨年、一昨年と天候の影響で庵我地域の例年の行事が中止となったり、いつもと大きく内容を変更し実施されたりして、この第二十一回庵我児童館文化祭も心配されたのですが、当日は雨に降られることなく開催することができ、多くの方々に来館いただきました事、紙面の上ですがお礼申し上げます。

庵我児童館文化祭と称していますが、児童館だけでは、おのずと限りがあり、裏方に徹していただいた児童館運営委員の皆様をはじめ多くの方々の協力を得なければ叶わない行事とさせていただきます。

今回も作品展示で文化祭に相応しい個性豊かな作品を飾っていただいた墨の会様や教育集会所で書道をされておられる地域の皆様、ひまわり保育園の園児さんは、可愛い作品で展示会場を和やかな雰囲気一杯にしてくださいました。

企画や模擬店では、庵我の子ども達の楽しむ笑顔のためにと、景品や模擬店の食材を庵我消防団様や下猪崎やじ



るべえ母親クラブ様に提供していただきました。  
また、午後からの舞台発表では保育園の先生方の太鼓の披露で華を添えて頂き、最後の取りは、毎年野球の練習と同じく何度も練習を重ね、手作りの衣装で三ツクな創作劇で会場を盛り上げていただいた庵我少年野球クラブ様。  
全てを述べる事が出来ませんが、「広がれ 友だちの輪 あつまれ 庵我やんちゃっ子」のテーマのとおり、皆でつくりあげた文化祭が出来たと感謝しております。

児童館の書棚のアルバムには一九九八年に第一回目の文化祭の記録が残っております。

当時は、初めての行事で手探りのなか、地域の方々と児童館関係者とが各々知恵を出し合い、子ども達を楽しませよう！活気に溢れた行事しよう！と開催された様子が昨日のことのように見取れます。

さて、今年は二十二回目の文化祭を予定しております。児童館文化祭が地域の方々と繋がりが創りあげる行事を続けてまいりたいと思っておりますので、御賛同御協力いただきますようお願いいたします。

編集後記

しあわせ庵我平成三十年一月第四十号の発行に際して、たくさんの方々に協力いただきました誠にありがとうございます。ご意見ご寄稿がありましたら、是非お寄せ下さい。

元気で明るい地域作りに一層のご協力をお願いいたします。

平成三十年一月

編集委員

- 日高
- 足立
- 塩見
- 内田
- 塩見

